なぜ黒塗り公文書公開が続くのか

吉川 三津子議員

職員の意識不足を反省している

総務部長

問 誰もが市が所有する文書を入手することができるのが、情報公開制度であり、市民と市の信頼関係を深めるためにある。

しかし、愛西市では「黒塗り」の公開が続いている。市の見解は。

答 運用マニュアルに基づき、対応している。

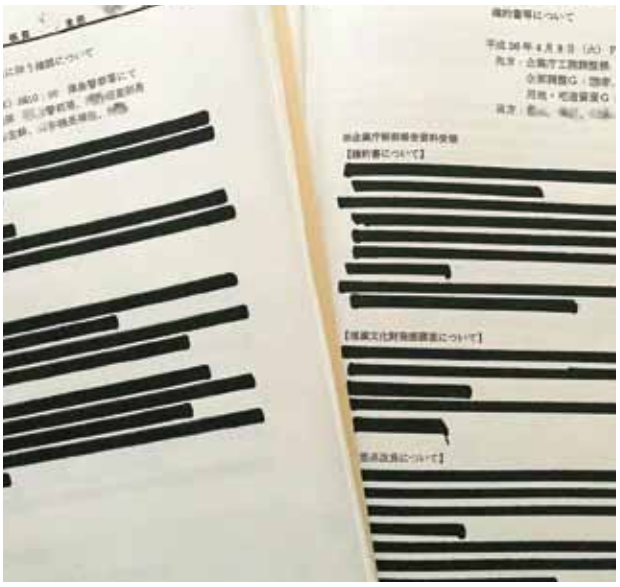
問 市民の方から「公共下水道分担金に不公平がある」と連絡を頂き、2年間、情報公開をして調べてきたが「黒塗り」が続いた。また、南河田企業団地進入路の交差点隅切りに関する予算が12月議会に上程されたが「答弁拒否」だったため、是非を見極めるため情報公開をした。しかし、688枚が「黒塗り」だった。

都合の悪い文書は出さなくてよいという暗黙のルールが市にはあるのか。

なぜ何度も続くのか。

答 一部の部署で、条例の運用が適切でない事例があった。指導していく。

職員の意識不足を反省している。



▲県警との安全に関する協議までもが黒塗り（688枚）

問 市の情報は市民のものだという認識が職員に不足していないのか。職員研修の現状は。

答 情報公開に関する研修は、今まで行っていない。公開の在り方など教育していく。

コロナ禍 大型公共事業は立ち止まれ

問 コロナ対策により、国の借金は国民1人当たり約966万円になり、2年前で100万円も膨らんでいる。次年度以降の市の財政見通しは。

答 令和8年度から合併特例債の活用ができなくなり、財源確保が厳しくなる。社会保障経費等の増加、公共施設の更新、老朽化対策費も財政を圧迫する。

問 コロナ禍で、市民の収入減・失業・生活保護が増えている。

道の駅拡張事業は、東の広い広場にバーベキュー施設整備等をする総額35億円の事業で、維持管理費に見合った収益が上げられるかも不透明だ。

不安定な先が読めない中、立ち止まるべきでは。

答 コロナ禍後の愛西市のまちづくりのひとつとして、計画を進めていく。